

第10回ゾンビ映画研究会

「ロメロ・ゾンビを振り返る—ジェンダー論とゲーム論を読む」

日時 **3月19日(土)** **14:00~16:30** 開催形式 **ZOOM**

【概要】

ゾンビ映画研究会では、これまで、しばしば当該ジャンル最大の参照項たるジョージ・A・ロメロの作品を取り上げ、その先行研究を概観・整理しつつ新しい研究の在り方についても模索してきた。周知の通り、ロメロは、映画が製作された当時のアメリカの状況を——ゾンビやそれらを目前にした人間社会の描写を通して——メタフォリカルに視覚化した。社会反映論的あるいは精神分析的（集合的悪夢としてのゾンビ映画）な見方は、よってロメロ・ゾンビ研究における基本軸ではあるのだが、この度は、二本の論文（ジェンダー論とゲーム論）を手掛かりとして従来のゾンビ観の見直しを試みたい。

【発表 第1発表(50分)+第2発表(25分)+討論】

- 1 芹澤円（神戸大学大学教育推進機構国際コミュニケーションセンター助教）／岡田尚文（学習院大学／慶應義塾大学非常勤講師）

「ジェンダー論で振り返る——Natasha Patterson, “Cannibalizing Gender and Genre: A Feminist Re-Vision of George Romero’s *Zombie Films*”, in *Zombie Culture: Autopsies of the Living Dead*, Shawn McIntosh/Marc Leverette (Eds.), (The Scarecrow Press, Inc. 2008, pp. 103-118) を手掛かりに」

- 2 田原康夫（学習院大学人文科学研究科身体表象文化学専攻博士後期課程）

「ゲーム論で振り返る——Gareth Schott, “Digital Dead: Translating the Visceral and Satirical Elements of George A. Romero’s *Dawn of the Dead* to Videogames”, in *Zombies Are Us: Essays on the Humanity of the Walking Dead*, Christopher M. Moreman/Cory James Rushton (Eds.), (McFarland & Company, Inc., Publishers, 2011, pp. 141-150) を手掛かりに」

【申込方法】

参加を希望される方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。
折り返しZOOMのURLをご案内いたします。

guscscvr1@gmail.com